

七友会 だより

オリンピックの年に思う

七友会会長 佐原 和典



Uwate
University
岩手大学

目次

オリンピックの年に思う…	1
評議員会報告 ……………	2
平成19年度事業報告 ……	2
平成19年度会計決算書 …	3
監査報告書 ……………	3
平成20年度事業計画 ……	4
平成20年度会計予算書 …	4
役員改選 ……………	5
平成20年度 第1回理事会報告 ……	5
24年間を振り返って ……	5
関西方面に お住まいの方へ ……	6
住所(変更)を お知らせ下さい ……	6
訃報 ……………	6
情報をお寄せ下さい ……	6

今年のはじめ、友人からハガキが届いた。昨年から住んでいる香港がオリンピック開催で、にぎやかな様子を伝えていた。改めて、今年が「オリンピックの年」であることを思い出させた。そうこうしているうちに、中国ではチベット問題や四川大地震などがあり、オリンピックはどうなるのかと思われた。頭をよぎったのは、モスクワやロサンゼルスのようなボイコットの動きだった。

偶然、テレビで、当代表に選ばれながら試合のできなかった、日本とロシアの柔道の選手の交流を伝える番組があった。まぼろしの代表選手たちが人生に一つの区切りをつけるため、永い間のわだかまりを少しずつ解いていく様子は、胸を打つものがあった。二度とあうということがあってはならないと思っても、紛争の火種はあちこちにあるもので、グルジアや中東の紛争は今後の大きな問題になりそうだ。

オリンピックの影響で、夏の高校野球も変則開催で例年とは違ったおもしろみがあった。私は、娘の野球応援に釣られて初めて球場へ行った。私の母校では、野球応援に生徒が行くことがなかったので、全てがはじめての体験だった。球場での観戦は、実におもしろかった。テレビで観る以上の迫力と、スタンドの熱気。太陽の日差しもさることながら、応援の声も、思いも実に熱い。残念ながら娘の学校は甲子園へは行けなかったが、甲子園での熱戦同様、一球に泣き、笑いする好ゲームだった。良い思い出が一つ増えた。

はじめてオリンピックを見たのは、小学生の時だった。学校のテレビでみんなで応援した記憶がある。東京オリンピックだ。入場行進の様子や円谷選手の姿が頭に浮んでくる。その後、何度となく夏のオリンピックを見ているはずだが、強烈な印象を受けて思い出さず場面はなぜか少ない。回を重ねるごとに、華やかになり、商業的になる様は一時の印象で終わらせてしまう何かがあるのかもしれない。競技種目はだいぶ増えた。ビーチバレーやトランポリン、トライアスロンなども加わり、よりスポーツの祭典らしくなっている。「4年に一度」…というこの一瞬に照準を合わせて調整してくる選手には、並々ならない日々があったことだろう。それは競技終了後のインタビューからも感じられる。体力や技術の向上はもちろん精神的に高めていかなければ、甲子園の魔物以上のオリンピックの怪物には太刀打ちできないだろう。オリンピック前に選手のオリンピックへ向けての様子を扱った番組をいくつか見た。競泳の北島選手のフォームの改良や筋力強化の様子、自分の信念を曲げず、かつ科学的に分析した泳ぎには感服した。フェルプスの練習にも驚いた。アテネでキック力の必要性を痛感した彼は、すぐにキック力強化に入り、4年間続けたという。毎回、ターンするたびに頭ひとつ前に出ていく泳ぎは、そうした練習の賜なのだろう。選手のインタビューで感じたのは、「感謝」のことばが多かったことだ。練習を支えてくれた家族や仲間、応援してくれる人々への感謝には、少し驚くとともに、何かひと皮剥けた感じがした。メダルを獲得した種目で一番驚いたのはフェンシングだった。フェンシングを実際に知ったのは寮の同室となった教育学部の友人からだった。彼は高校からフェンシングを始め当時、岩手女子高でコーチをしていた。はじめて、フェンシングの用具に触れ、エベやフルーレなど、ことばやルールを少々教わった。彼が当時でもマイナーな競技をはじめたのは、「国体に出やすいから…」と言ってはいたが、練習相手を探すのには苦労していたようだ。銀メダルを獲った太田選手も強い相手を求めて発祥の地ヨーロッパで長い間練習を積んだという。多くを自費で賄い、技を磨いた彼の「仕事をください」ということばは、強烈だった。

4年に一度のスポーツの祭典を観ながら、いろいろ考えさせられた。フェンシングを教えてくれた彼はどうしているのか？ 選手たちの日々の生活はどんなだろうか？ メダルを逃し、あるいは実力を出し切れず項垂れていた選手たちの思いはどうだろうか？ 祭典後、どんな生活がはじまるのだろうか。そして、中国はどうなるのだろうか？ グルジアはどうなるのだろうか？ 一時のお祭り騒ぎに隠れていた、政治、経済、民族問題が日常のものとなってくる。やはり紛争のない「平和」が、一番大事なはずなのだが…。

評議員会報告

平成20年度評議員会は、6月28日(土)、岩手県民情報交流センター(アイーナ)で開催されました。当初6月14日(土)開催を予定していましたが岩手・宮城内陸地震の影響を受け、出席予定者の多くが会場への到着が困難となり延期していました。そのため、出席者は13名に止まりましたが、活発な議論がなされました。議論の中心は、同窓会設立30周年記念行事(平成23年開催予定)の準備に関するものでした。前回(20周年)は事前準備(アンケート、旅行、手配など)も、当日の準備もたいへん苦労したことを踏まえて、早めの企画・立案、人的体制の確立などが検討されました。また、会員住所が約5割程度しか把握できていない現状を改善するため、支部の結成や活動の活発化などについても話し合わせ、内容は、理事会で具体化することになりました。

なお、役員改選もおこなわれました。会長以下、多くは再任でしたが5名の新しい理事も選出されました。任期は平成22年の評議員会までとなりますが、新たな気持ちで、30周年に向けた準備を進めていきたいと思っておりますので、会員の皆さんの御理解、御協力をお願いいたします。

平成19年度事業報告

平成19年度は会報は2回、第25号と第26号を発行しました。特に、第26号には学部創設30周年記念誌を同封しました。

10月の「人文社会科学部創設30周年記念行事」には、県内を中心に十数名が集まり、先生方もまじえて懐かしい一時を過ごしました。なお、30周年記念樹として「オオヤマザクラ」1本を教育後援会とともに贈呈しました。1号館横にありますので、大学へおいでの際はぜひご覧ください。

「全学同窓会(仮)」については、だいぶ進展していましたが、秋に予定されていた懇談会が延期になり、年度内には設立されませんでした。同窓会としては引き続き協力していきたいと考えています。

平成19年度のおもな活動は次の通りです。

- | | |
|------------|--|
| 平成19年6月2日 | 岩手大学開学記念講演会・園遊会(大学内にて)
同窓会代表として佐原会長・菊池副会長が出席 |
| 6月9日 | 平成19年度評議員会(アイーナ710号室にて)
議題:平成18年度事業報告・決算報告・監査報告
平成19年度事業計画・会計予算
会則改正
その他 19名出席 |
| 7月6日 | 学長と同窓会長との懇談会(大学本部にて)
議題:連合同窓会(仮)について
同窓会より佐原会長が出席 |
| 8月6日 | 人文社会科学部創設30周年記念行事実行委員会
実行委員(同窓会代表)として佐原会長が出席 |
| 9月7日 | 会報『七友会だより』第25号発行・会員へ順次送付 |
| 9月22日 | 臨時評議員会(アイーナ808号研修室にて)
議題:学部創設30周年記念事業への支出に伴う予算変更
その他 10名出席 |
| 10月19日 | 人文社会科学部創設30周年記念行事
記念講演(学部5号館51大講義室にて)
講師:学習院大学法学部教授 佐々木毅先生
記念祝賀会(盛岡グランドホテルにて)
佐原会長ほか十数名が参加 |
| 10月30日 | 佐藤道郎先生 葬儀・弔電
同窓会より佐原会長が火葬へ参列 |
| 12月11日 | 就職ガイダンス(中央学生食堂にて)
佐原会長と同窓生3名が出席(全体約60名) |
| 平成20年2月16日 | 「純米酒岩手大学」お披露目会(中央学生食堂にて)
同窓会より佐原会長が出席 |
| 2月20日 | 岩手大学人文社会科学部研究科修士論文公开发表会
(学生センター棟G1大講義室にて)佐原会長が出席 |
| 2月28日 | 院生への返還金対応:佐原会長 |
| 3月 | 退官教官へ記念品贈呈 |
| 3月17日 | 会報『七友会だより』第26号発行
学部創設30周年記念誌とともに会員へ順次送付 |
| 3月21日 | 岩手大学卒業式(岩手県民会館にて)
学部創設30周年記念植樹(人社1号館横にて)
卒業記念祝賀会(中央学生食堂にて)
同窓会代表として佐原会長・足立副会長が出席 |

平成19年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計決算書

1. 一般会計

<歳入>

(単位 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
前年度繰越金	2,499,338	2,499,338	0	普通預金(1,598,168円)、定期預金(901,170円)
会費	4,700,000	4,340,000	△360,000	20,000円×217名
特別会計より繰入	1,000,000	1,000,000	0	
雑収入	1,276	5,137	3,861	利息
計	8,200,614	7,844,475	△356,139	

<歳出>

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
1. 事業費	5,150,000	3,437,437	1,712,563	
1) 会報発行関係	1,500,000	1,148,015	351,985	
ア. 会報等印刷費	800,000	634,095	165,905	会報2回印刷(No.25、26)
イ. 会報等郵送費	700,000	513,920	186,080	会報郵送費(No.26は定形外メール利用)
2) 会員活動援助費	400,000	237,972	162,028	評議員会宿泊補助、就職懇談会補助
3) 卒業記念品贈呈費	200,000	200,000	0	27期、28期分積立
4) 支部援助費	800,000	324,360	476,640	関東支部ホームページ維持管理運営費等
5) 文化事業補助	200,000	0	200,000	
6) 寄附金	500,000	500,000	0	人文社会科学部へ奨学金寄付金
7) 学部創設30周年記念事業負担金	1,000,000	1,000,000	0	学部30周年記念事業費として学部教育後援会へ
8) 全学同窓会(仮)負担金	500,000	0	500,000	年度内設立見送り
9) 諸費	50,000	27,090	22,910	退官教員(4名)への記念品、弔電
2. 会議費	600,000	649,813	△49,813	
1) 評議員会会議費	500,000	614,958	△114,958	評議員会(定例6月、臨時9月)諸経費
2) 諸会議費	100,000	34,855	65,145	卒業式出席旅費(副会長)
3. 事務費	600,000	458,503	141,497	事務用品、データ管理・ホームページ協賛金等
4. 特別積立金	700,000	700,000	0	
5. 雑費	100,000	100,000	0	事務謝金
6. 学部設立30周年記念積立	0	0	0	
7. 同窓会設立30周年記念積立	400,000	400,000	0	
8. 返還金	60,000	20,000	40,000	院生1名分
9. 予備費	590,614	0	590,614	
計	8,200,614	5,765,753	2,434,861	

平成19年度収支決算

歳入合計 7,844,475
 歳出合計 5,765,753
 差引残高(翌年度繰越) 2,078,722 普通預金(1,176,976円)、定期預金(901,746円)

2. 特別会計

<歳入>

(単位 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
1. 前年度繰越金	44,290,156	44,290,156	0	
2. 新規積立金	1,300,000	1,300,000	0	
3. 利息	4,391	30,362	25,971	
計	45,594,547	45,620,518	25,971	

<歳出>

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
1. 一般会計へ繰出	1,000,000	1,000,000	0	
2. 積立金	44,594,547	44,620,518	25,971	年度末積立金額=翌年度繰越額
1) 特別積立金	27,510,623	27,524,363	13,740	利息(17,157)
2) 卒業記念積立金	3,043,997	3,045,606	1,609	利息(1,821)
3) 学部設立30周年記念積立	6,732,687	6,739,045	6,358	利息(6,963)
4) 同窓生設立30周年記念積立	7,307,240	7,311,504	4,264	利息(4,421)
計	45,594,547	45,620,518	25,971	

監査報告書

平成19年度、岩手大学人文社会科学部同窓会会計決算書について本会計決算は適正であることを確認致しました。

平成20年6月28日

監査員 工藤康身 ㊞

平成20年度事業計画

平成20年度は「同窓会設立30周年記念行事」に向け、会員住所の把握に努め、会員データの更新を図っていききたいと思います。

そのためにも盛岡の事務機能の強化と活性化を図るとともに、各支部の活性化を促したいと思います。

また、大学や学部等の連携にも積極的に関わっていききたいと思います。

平成20年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計予算書

1. 一般会計

<歳入>

(単位 円)

科目	予算額	備考
前年度繰越金	2,078,722	普通預金(1,176,976円)、定期預金(901,746円)
会費	4,600,000	20,000円×230名
特別会計より繰入	0	
雑収入	5,137	利息
計	6,683,859	

<歳出>

科目	予算額	平成19年度予算額	備考
1. 事業費	4,050,000	5,150,000	
1) 会報発行関係	1,500,000	1,500,000	
ア. 会報等印刷費	800,000	800,000	会報発行
イ. 会報等郵送費	700,000	700,000	
2) 会員活動援助費	400,000	400,000	親睦会・交流会等
3) 卒業記念品贈呈費	100,000	200,000	29期分積立
4) 支部援助費	800,000	800,000	関東支部(ホームページ維持費)、仙台支部 他
5) 文化事業補助	200,000	200,000	
6) 寄附金	500,000	500,000	人文社会科学部へ寄附
7) 学部創設30周年記念事業負担金	0	1,000,000	
8) 全学同窓会(仮)負担金	500,000	500,000	
9) 諸費	50,000	50,000	慶弔費
2. 会議費	600,000	600,000	
1) 評議員会会議費	500,000	500,000	評議員会諸経費
2) 諸会議費	100,000	100,000	
3. 事務費	600,000	600,000	事務用品、データ管理費・ホームページ協賛金等
4. 特別積立金	400,000	700,000	
5. 雑費	100,000	100,000	事務謝金
6. 学部設立40周年記念積立	300,000	0	
7. 同窓会設立30周年記念積立	300,000	400,000	
8. 返還金	40,000	60,000	院生2名分
9. 予備費	293,859	590,614	
計	6,683,859	8,200,614	

2. 特別会計

<歳入>

(単位 円)

科目	予算額	平成19年度予算額	備考
1. 前年度末繰越金	44,620,158	44,290,156	
2. 新規積立金	1,100,000	1,300,000	卒業100,000円、特別400,000円、学40周300,000円、同30周300,000円
3. 利息	30,362	4,391	
計	45,750,880	45,594,547	

<歳出>

科目	予算額	平成19年度予算額	備考
1. 一般会計へ繰出	0	1,000,000	
2. 積立金	45,750,880	44,594,547	
1) 特別積立金	27,941,520	27,510,623	(27,524,363 + 400,000 + 17,157)
2) 卒業記念積立金	3,147,427	3,043,997	(3,045,606 + 100,000 + 1,821)
3) 学部設立40周年記念積立	7,046,008	6,732,687	(6,739,045 + 300,000 + 6,963)
4) 同窓生設立30周年記念積立	7,615,925	7,307,240	(7,311,504 + 300,000 + 4,421)
計	45,750,880	45,594,547	

役員改選 [平成20年6月28日～平成22年の評議員会まで]

会則、第8条に基づいて役員改選が行われ以下の方々が選出されました。任期は2年で平成22年の評議員会による役員改選までとなります。よろしくお願いします。

会 長	佐原 和典			
副会長	菊地 良一	高橋 享孝	足立 慎悟	
理 事	大澤 雅昭	大志田 穰	晴山 農	藤村 紀行
	高嶋 才司	夏井 正悟	棟方 範幸	栗林 健司
	大谷 敬	佐藤 伸樹 (新)	黒沢 成 (新)	吉田 真二 (新)
	清野 陽一 (新)	松岡 和生 (新)		
監 査	小松山 修	工藤 康身		
幹 事	内堀真結子	内堀 哲		
顧 問	落安 昭三	塩田 勝美	大畑 莊一	砂山 克彦 (学部長)

平成20年度 第1回 理事会報告

評議員会終了後、第1回理事会を開き、今後の具体的な活動について話し合われました。当面の大きな行事となる「同窓会設立30周年記念事業」にむけて、事業内容の検討に入っていくことが確認されました。また、行事等の案内ができる会員住所の把握が5割程度にとどまっていることを解消するため、理事の属する卒業期を中心に、住所等の情報量を増やし連絡先不明者を減らす活動をはじめることになりました。手紙等で情報提供をお願いしますので、よろしくお願いします。こうした作業は、順次他の期にも行なっていく予定ですので、協力できる方は事務局あるいは理事等へ気軽に御連絡下さい。

24年間を振り返って

前 環境科学課程教授 井上 隆 義

1984年4月から科学論講座に所属し、当時唯一の学部必修科目であった「科学論」(現在の「総合科学論」の前身)の代表をしながら、「自然科学史」、「科学技術論」という学部共通科目の講義を担当した。教員2人だけの科学論講座は、制度上専攻する学生がいなかったから、ただひたすら講義をやるだけで演習や特別研究の担当もなく、楽と言えば楽だったがつまらなくもあった。ところで、学部必修科目「科学論」の最終成績は私が判定するわけなので、私が「不可」を付ければその学生は卒業できない。大分県の教育界を揺るがしている教員採用をめぐる贈収賄事件のように、賄賂をもらって成績を改ざんして私腹を肥やすこともできたが、幸か不幸かそんな申し出をするような不埒な学生はいなかった。ただ、単位を落とした学生に泣かれたり、無理難題を持ちかけたりして往生したことが何度もあった。それにしても、当時はゆっくりと時間が流れていて、教育、研究にじっくり取り組むことができているように思う。

文部省(当時)が大綱化を打ち出したのを契機に、1993年4月に新たに環境情報科学コースが設置され、科学論・基礎自然科学の両講座の教員も専攻学生をもつようになった。どちらかという教員の側の事情に合わせて開設されたコースという感じが否めず、私も「情報の科学史」なる専門科目を加えたが、もともと情報論に弱いこともあってうまくいかなかった。

その後2000年4月に学部改組によって環境科学課程が開設され、新たに環境文系の4名の専門家を迎えることができ、充実した教育研究組織として再出発できそうな気持ちになった。私も環境科学講座に所属することになり、新たな開設科目「環境技術論」の講義と所属するゼミ生の演習と特別研究のために環境問題の勉強に随分時間を費やすことになった。その分本来の専門の物理学史研究がおろそかになったが、それはそれで充実していた。そして、新課程が2サイクルを終える8年後の今年3月に何とか定年を迎えることができた。

人文学部在職の24年間を振り返ってみると、反省すべきことも多い。私の専門領域が科学史・技術史、科学論・技術論という理系と文系の境界にあるようなものであるため、人文社会科学部という総合的学部では本来ならもっと重要な任務がやるべき仕事があったと思われるが、如何せん力量不足でほとんど役に立てなかった。とは言え、その一方で、このような学部で過ごすことができたために、自然科学者だけでなく、哲学者や経済学者、あるいは文学者など様々な専門の人々にも接する機会をもて多くのことを学ぶことができ、何にも代え難い貴重な財産となった。

ところで、人文社会科学部では「総合化」と「専門深化」をめぐる絶えず議論がなされてきた。学問の細分化に対する反省という時代の要請を受けてこの学部を創ったからには、私は総合化の実を示すことなしには本学部の存在価値はないと思っている。目先の社会的ニーズに応え、地域に貢献することも大事かも知れないが、人文社会科学部には現代の基本的な諸課題について哲学的・思想的根底を感じさせる真に総合的な研究の成果が期待されているのではないだろうか。

岩手・宮城内陸地震及び岩手北部地震で被災された会員の皆さん及び関係者の方々へ、心よりお見舞い申し上げます。また、災害に際し、救援活動や復旧活動等に携わった会員の皆さん及び関係者の方々へ心より感謝申し上げます。一日も早い復旧と安全な暮らしを心より念じております。

人文社会科学部同窓会 役員一同

＝関西方面にお住まいの方へ＝

吉田真二君（7期卒）が、今年4月から岩手県大阪事務所勤務となり、大阪での関西方面の同窓生の集まりを計画しています。将来は、支部にできれば…という思いも込められていますので、関西方面にお住まいの方は、ぜひ御参加下さい。

なお、同窓会では費用面での援助も予定しています。関心のある方は大阪事務所の吉田君、あるいは事務局までお知らせ下さい。よろしくお祈りいたします。

会員の皆さん 住所（変更）をお知らせ下さい

会員の皆さん、就職転居等で住所が変わりましたら同窓会にもお知らせ下さい。連絡先住所は、本人の現住所がベストですが実家等連絡のとれるところでもかまいません。会報や行事の案内等を送ります。

連絡は郵便、FAX、Eメールでもかまいません。下記連絡先を御利用下さい。

ふりがな 氏名	(男・女)	卒業 期 (年 月卒)
住所 〒		※封筒にある整理 No. :
TEL		

訃 報

大 澤 靖 先生（体育・社会体育学、名誉教授）

平成20年4月14日、急性心不全のため亡くなりました。81歳、学部創設時より、体育や社会体育学を担当。専門のラグビーでは、2000年まで岩手大学ラグビー部監督を務め、'93年から'03年まで県ラグビー協会長。葬儀には岩手大学卒業生をはじめラグビー関係者などで、会場から溢れ出るほどの参列者がおおいになりました。多くの方からの弔辞、弔電があり、先生の人柄が偲ばれる一日でした。心より御冥福をお祈りいたします。

佐々木 達 夫 先生（英語・言語論、名誉教授）

平成20年7月4日、胃がんのため亡くなりました。80歳。学部創設時より、英語、特に言語論などを担当、大きな体とやさしい眼差しが印象的でした。退官後は、久保学園の評議員や校長などを務められておりました。葬儀には、大学関係者や一般の方など多くの方々も参列され卒業生を代表して、昆光枝さん（三期卒）が弔辞を述べられました。先生には同窓会設立20周年記念講演をしていただいたこともあり、懐かしい日々を憶い出す一時でした。心より御冥福をお祈りいたします。

●●●● 情報をお寄せ下さい ●●●●

会員方の活躍している様子や近況報告でも結構です。岩手を遠くはなれた方もいますので、様々な情報をお待ちしています。また、同窓会活動についての意見や会報についての意見でも結構です。郵送、FAX、あるいはEメールで気軽にお寄せ下さい。なお、会報編集などを手伝ってくれる方も探しています。

岩手大学人文社会科学部同窓会

【郵便宛先】020-8550 盛岡市上田3-18-34
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
【事務局】Tel(留守録)& Fax: 047-336-3945
E-mail: office@shichiyukai.net
info@jinsya.com

ホームページもご覧ください!

http://www.shichiyukai.net/
http://www.jinsya.com/ [関東支部]